

広仁会賞 第33回 横林 賢一

題 名 : Prospective cohort study of fever incidence and risk in elderly persons living at home
(在宅高齢者における発熱発生率およびリスクに関する前向きコホート研究)

発表誌 : BMJ Open. 2014 Jul 9; 4(7): e004998. doi: 10.1136/bmjopen-2014-004998.

要旨 :

- 目 的 : 在宅医療管理中の高齢患者における発熱イベント発生率、リスク因子、発熱原因
診断名、予後（在宅治癒、入院、死亡）を明らかにする
- デ ザ イ ン : 前向きコホート研究
- セ ッ テ ィ ン グ : 1日あたり50-200人程度が受診する5か所の診療所
- 対 象 : 2009年10月1日～2010年9月30日の期間、対象施設で在宅医療管理を受けた65歳
以上のすべての患者 (n=419)
- エ ン ド ポ イ ン ト : 発熱 (37.5度以上あるいは通常の体温より1.5度以上上昇した場合)、発熱時の診
断名、発熱時の予後 (在宅治癒、入院、死亡)
- 結 果 : 在宅高齢者の発熱発生率は 2.5/1000 patient-days (95% CI 2.2 to 2.8) で、1年
間で約3分の1の患者が発熱を来した。車いす・寝たきりのADLの方が自力歩
行可能な患者より発熱しやすく (HR, 1.9 (95% CI 1.3 to 2.8; p<0.01)、中等度
以上の認知症がある方が認知症なしあるいは軽度の患者より発熱しやすく (HR,
1.7 (95% CI 1.1 to 2.6, p=0.01)、要介護度が3以上の方が2以下より発熱しやす
かった (HR, 4.5 (95% CI 2.9 to 7.0; p<0.01)。また、発熱の原因疾患として肺
炎・気管支炎 (n=103)、皮膚・軟部組織感染症 (n=26)、尿路感染症 (n=22) が
上位3疾患であり、発熱患者の約7割が在宅で治癒していた。
- 結 論 : 介護を要する人ほど発熱しやすく、発熱の原因では肺炎・気管支炎が最も多かつ
た。医療提供者は要介護状態にある患者のケアに特に注意する必要がある。